

## 2022年度 Gondwana 地質環境研究所 (GIGE) 事業報告

2022 年度 (2022 年 1 月～12 月) の [Gondwana 地質環境研究所 \(GIGE\)](#) 本部実施事業・活動の概要は以下の通りである。別に [月別事・活動記録](#) をリンクで示した。決算報告は 3 月確定申告後に GIGE ホームページで公開する。

### <主な事業>

#### 1. 学生のヒマラヤ野外実習プログラム関連事業

(1) 第 10 回実習ツアー (SHET-10) の

(2) 準備 (1 月～2 月)

(2) 第 10 回学生のヒマラヤ野外実習ツアーの実施 (3 月) : 実習ツアー (SHET-10) は 2022 年 3 月上旬に 17 日間、例年通りのプログラムで実施され、会長がリーダー兼野外地学講師として参加した。ツアー出発 2 週間前の 2 月 20 日に諸般の事情を勘案してツアー実施を決定した。当時外務省はネパールを感染危険度 3 として渡航中止勧告の対象国に入れていたが、実際にはネパールは日本より遥かに安全であることが判明したのであり、外務省の勧告の根拠は無くなっていたのである。しかし、当初の参加登録者は 10 人であったが、COVID-19 関連問題のため 2 月下旬には 5 人がキャンセルし、実際の日本人参加者は 3 大学から学生 5 人であった。学生は北大、千葉大と広島大であった。

日本出発は 3 月 3 日、コロナ問題のために例年利用する中国系のフライトが無く、全員がシンガポール航空を利用しカトマンズ空港に 4 日深夜に到着した。実習ツアーコースは例年と同じカトマンズーポカラムクチナートールンビニーカトマンズを 10 日間でバスで走破した。ツアー期間は全般的に好天でヒマラヤの見事な眺望に恵まれ、実習は予定通り実施された。日ネ学生の交流も支障なく行われた。

SHET-10 実施経費総額は 1,660,852 円であった。財源は参加者による参加費 1,009,369 円と 2 組織 (IAGR と GIGE) による寄付金 350,903 円及びクラウドファンディング 300,080 で、学生 1 人当たりの実施経費は 332,170 円、寄付金等による学生 1 人当たりの補助金は 131,170 円で結局学生 1 人当たりの参加費は 201,000 円であった。



SHET-10 チーム、アンナプルナ連峰をバックに (3 月)

宗近俊祐君提供

(3) SHET-10 の報告 (3 月～5 月) : [実施報告 \(概略\)](#) は GIGE ホームページで公開 (3 月) のほか、日本地質学会 NEWS (5 月) に投稿されたが掲載がペンディングになっている。総合報告書「[ヒマラヤ造山帯大横断 2022](#)」(会長編集、フィールドサイエンス出版発行 PDF 版 191 頁) は 5 月に発行された。

(4) SHET-11 の情宣・参加者募集、ツアープログラムの作成とツアー実施準備 (5 月～12 月) : インターネット、参加者らの SNS、日本地質学会 NEWS、地研研そくほうなどによる SHET-11 情報の情宣・公表や、国内 72 地学関係教室対象に「[ヒマラヤ造山帯大横断 2022](#)」([リンク](#))、[SHET-11 参加者募集ビラ](#)及び [SHET-11 実施プログラム](#)を送付した。しかし COVID-19 問題で参加登録者は 12 月下旬段階で 5 大学から 12 名と例年より少なめである。ツアー実施に当たっては日ネ両国政府の出入国規制状況が 12 月下旬の状況から大きく変わらなければ大きな問題にはならないであろう。ネパール側との連絡と情報交換・参加登録者への諸情報・注意等の送付などが 8 月から 12 月にかけて行われた。



2015 年の大地震で裏山のランタンリルンの氷河雪崩で壊滅したランタン村は現在同じ場所に再建された。(2022 年 10 月 26 日撮影)

(5) SHET クラウドファンディングの開始

2022 年 3 月の SHET-10 では航空運賃やネパール国内旅費の高騰があったが、その傾向は今後も続くと予想され、学生参加費を 20 万円以下にするには外部資金導入が必須と判断された。そこで SHET 参加費補助を行なうために新たなクラウドファンディングを開始した。(http://www.gondwanainst.org/shet-cf)

(6) SHET-OB・OG 有志の白馬集会 : COVID-19 問題を考慮して例年の SHET 参加者交歓会は中止であったが当初の予定日には SHET-7 参加の中村慎吾氏と SHET 参加候補のお 2 人が白馬分室 (木漏れ陽荘) に集まり、会長夫妻を含む 5 人で SHET-10 の報告等で盛り上がった。

## 2. ネパールランタン谷の野外調査関連

(1) 野外調査の実施 : ランタン谷は 2015 年のネパール西部大地震で大きな被害を被った。GIGE ではランタン谷の地学ガイドブックの執筆・編集に 2008 年から取り組んできたが、この大地震の後の現地の状況を取り入れるべく、10 月-11 月に 10 日間の野外調査を会長がトリブバン大学生 1 人を伴って実施した。

(2) ランタン谷地学ガイドブックの執筆・編集

11 月～12 月、野外調査結果の整理を継続実施中。

## 3. 論文・書籍の執筆・投稿・発行

- ① 「ヒマラヤ造山帯大横断 2022 (吉田勝編集)」(上記) の編集・発行 (3 月～5 月)、フィールドサイエンス出版、191 ページ。
- ② 「ヒマラヤの学生野外実習ツアー (2022 年 3 月)」
- ③ 「長野県白馬村周辺の氷河—氷河公園/ジオパークの可能性 (吉田勝)」の執筆完了して投稿 (2 月)、発行 (11 月、地学教育と科学運動、89 号)。
- ④ 「ゴンドワナランドの集合・分裂とアジア大陸の成長—地球史最近の巨大事件 (吉田勝)」執筆完了・ゲラ校正終了 (1 月～8 月、東信堂 12 月出版予定)。
- ⑤ 「学生のヒマラヤ野外実習プログラム 10 年間 (吉田勝・学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト)」. 原稿の投稿 (9 月) (極地第 116 号掲載予定)
- ⑥ 論文「第 10 回学生のヒマラヤ野外実習ツアー (2022 年 3 月) 実施報告 (吉田勝)」. 北大山の会会報に投稿 (11 月)、131 号掲載予定。
- ⑦ 書籍「カリガンダキ河コース及びカトマンズ-ポカラ-バイラワ-ムグリーンハイウェイの地

学と自然災害野外見学ガイドブック（英文、SHET 実習テキスト）、改訂版（吉田勝、B.N.Upreti, P.D.Ulak 編集）」の原稿執筆・編集（1月～5月）、2023年発行予定。

- ⑧ 書籍「カリガンダキ河に沿う地学と自然災害見学ガイドブック」(2017年英語版の和訳版、吉田勝翻訳、8月に翻訳完成、2023年発行予定。
- ⑨ 書籍「ランタン谷の地学と自然災害、野外見学ガイドブック」(英文、B.N.Upreti, M.Yoshida, S.M.Rai 執筆・編集 11月～12月)、2023年出版予定。

#### 4. 学会における研究発表等

地学団体研究会（8月、オンライン）、日本地質学会（9月、オンライン）、ヒマラヤ・カラコルム・チベットワークショップ（11月、ネパールのポカラ）、ゴンドワナからアジア国際シンポジウム（11月、オンライン）及び極域科学シンポジウム（11月、オンライン）で「第10回学生ヒマラヤ野外実習ツアー実施報告」、「学生のヒマラヤ野外実習プログラム10年間の総括」及び「ヒマラヤの地学ガイドブック」等を報告した（会長ほか）。

#### <その他の事業・活動など>

- ★会長の既発表論文数編のデジタル化やPDFファイル作成とそれらのResearch GateとGIGEホームページにアップロード。
- ★GIGE本部及び白馬分室におけるGIGEの事務補助を吉田彬氏に委託。



事務補助担当の吉田彬氏（左）と会長（右）、2022年4月、GIGE本部で

2022年12月25日

吉田 勝

ゴンドワナ地質環境研究所（GIGE）会長

<http://www.gondwanainst.org/>

648-0091 和歌山県橋本市柱本 147-2

E-mail: [gondwana@oregano.ocn.ne.jp](mailto:gondwana@oregano.ocn.ne.jp)

Tel & Fax: 0736-36-7789 Cellphone & SMS: 080-6112-7789